

里親・里子間の
関係不調を防ぐ、
登録前研修と
登録後の支援

報告集

里親養育の質の向上をめざして

2018.3.3(土)

日本財団2F大会議室AB

2018.3.11(日)

西南学院大学コミュニティセンター

「フォスタリングチェンジ・プログラム」

親と暮らせない子の7割が里親のもとで暮らす英国で17年前に開発された、里親のためのトレーニングプログラム。

里子の問題行動に適切に対応し、愛着形成をはかることで、里親のストレス軽減や里親と子どもの関係改善をめざす。日本では、福岡をはじめ、大分、長野、静岡、三重などでも導入がはじまる。

【講師】



Kathy Blackeby キャシー・ブラッケビィ

モーズレイ病院の素行障害・養子縁組・里親養育専門家チーム(CAFチーム)の臨床スペシャリスト。1990年代にCAFチームでソーシャルワーカーとして勤務した後、ロンドン貧困地域で子どものメンタルヘルス専門家として子どもと家族への治療や医療・教育分野のトレーニングに従事。現在はCAFチームの臨床スペシャリストに加え、フォスタリングチェンジ・プログラムのトレーナーとしても活躍している。



Caroline Bengo キャロライン・ベンゴ

モーズレイ病院CAFチームの臨床スペシャリスト。長年ソーシャルワーカーとして、実家族・里親家族、養子縁組家族などの家族臨床に従事。2002年に子どもと青少年の精神医療ソーシャルワーカーおよびフォスタリングチェンジ・プログラムのための共同ファシリテーターとしてCAFチームに参加。個人と家族への直接的なワークを行っている。

【司会】上鹿渡 和宏

児童精神科医。2012年3月より長野大学社会福祉学部教授。2015年8月から2016年3月までオックスフォード大学セントアントニーズコレッジ・アカデミックビジター、日産現代日本研究所・ビジティングフェローとして英国で社会的養護に関する調査・研究に従事。現在、日本でのフォスタリングチェンジ・プログラム普及に精力的に取り組んでいる。

■ 東京フォーラム・九州フォーラムを開催して

(特)SOS子どもの村JAPANは、2005年から福岡市で始まった児童相談所と(特)子どもNPOセンター福岡の協働の里親普及支援事業「新しい絆プロジェクト」から生まれました。この中で、私たちは、「国連子どもの権利条約」で定められた「子どもの権利である家庭養育」が、わが国は諸外国に大きく立ち遅れていること、また「里親推進」と「支援のしくみづくり」を両輪として取り組むことが急務であることを知りました。そして「すべての子どもに愛ある家庭を」のスローガンのもとに世界で展開する「SOS子どもの村をわが国に」という活動を開始、2010年に福岡市西区に「子どもの村福岡」を開村しました。現在、4人の育親(里親)が、村長とともにチームとなって、「専門家支援」のもと「地域とともに」子どもたちを育てています。また、地域で困難を抱えた家族のために一時保護やショートステイの受入れ、「平日夜間・土日・祝日の相談」、「里親専門研修」などを行っています。

私たちは、2014年から「里親養育推進と養育の質の向上」のために、東京と福岡でオーストラリアの国際本部から専門家を招きフォーラムを開催、2016年からは、イギリスから「フォスターリングチェンジ・プログラム」導入のためにお招きしたキャシー・ブラケッビー、キャロライン・ベンゴ両先生による「イギリスの里親制度と支援」に関するフォーラムを開催してきました。本年は引き続き、里親支援機関の役割、里親リクルート、登録前研修、里親ソーシャルワークについて学ぶとともに、既にわが国での実践を重ねておられる(特)キアセットの登録前研修「Journey to Foster」について報告していただきました。

日本の子ども家庭福祉は、児童福祉法改正に引き続き、「新しい社会的養育ビジョン」に沿った「都道府県推進計画」の策定など、今後家庭養育へと大きく進むことが予想されます。今回の東京・九州各会場では、多くのそして多分野の方々の参加を得て、これからわが国で里親養育推進のために私たちがしなければならないことについて、それぞれの立場で考えていただけたのではないかと思います。また来年3月には、再び両会場での開催を予定しています。皆さまとともに、改正児童福祉法が目指す「子どもの権利に則った家庭養育の推進」に向けて活動していきたいと思いをします。

SOS子どもの村JAPAN
理事長 福重 淳一郎

モーズレイ病院素行障害・養子縁組・里親養育専門家チームの臨床スペシャリストのお二人をお招きし、里親先進国イギリスにおける、多様な里親支援や、里親認定のためのアセスメント・研修、里親支援についてお話を聞きました。以下要約します。

1.イギリス社会的養護の現状－里親委託率74%

1989年の児童法により、地方自治体、里親支援機関、裁判所、親などが子どもの保護と福祉の促進を行うための義務が規定される。そこには、子どもにとって最良の養育は実家族による養育であることが明記されている。実家族による養育が不可能であり、代替養育が必要な子どもには、子どもと縁のある親戚や友人が第一選択肢となり、次の選択肢が自治体で登録した里親、さらにそれも難しい場合に児童養護施設に委託することも規定されている。

代替養育下の子どもは増加し続けており、2017年3月末時点で72,670名(英人口6564万人)、里親委託率は74%である。

2.里親養育の基準31項目

子どもの福祉・安全を確保し良好な成果をもたらすために、2000年に制定された養育基準法(Care Standards-Act)には、フォスタリングサービス(里親支援事業)を対象とする国の最低基準31項目が設けられている。前半は子どもに焦点が当てられ、例えば、学力の向上についての細かな基準なども定められている。後半は里親支援事業についての基準であり、養育者による虐待の疑いと通告への対応手順なども明確に定められている。

日本とここが違う👉 民間里親支援機関295か所

イギリスの里親支援事業は、地方自治体による里親支援と民間里親支援の2つに分かれている。地方自治体による支援機関が66%、民間機関が33%の割合である。いずれも、里親リクルート、候補者のアセスメントと認定、教育・スーパービジョンなどの役割を担っている。自治体による委託の不足を民間機関が補完しており、より困難な子どもを民間里親支援機関が担当する傾向にある。自治体より高い里親委託費を支払う機関もあり、ソーシャルワーカーによる毎週の訪問、24時間365日の支援や治療的支援など、機関ごとに特色ある支援を提供している。近年、里親普及やマッチングの適合性を高めるため、自治体と民間機関の連携の枠組みや協定の整備が進んでいる。

3.多様な里親リクルート

里親の募集は、新聞広告・告知記事(地方紙中心)を利用するなど、地方で高い知名度を得ることが成功の鍵となる。口コミでの普及、ショッピングセンターやホームセンターなどでのPR、ソーシャルメディアの活用など、様々な手法で継続的に募集することが重要。

●フォスタリングネットワーク(The Fostering Network)

英国有数のフォスタリング慈善ネットワーク。里親制度、里親登録前の研修や登録後の支援についての情報、里親へのアドバイス、里親に関わる支援者のための情報などを提供する。里子の人生にかかわるすべての人が参加するネットワークであり、里親政策に影響を与え、里親養育手法の改善に寄与している。

●フォスターライン(Fosterline)

里親や里親養育、里親支援に関心のある人々の様々な心配ごとに対応するFoster Talkを配信している。里親になることへのサポートをすることで、里親募集を促進している。



日本とここが違う👉 里親手当

イギリスでは子どものニーズや養育者の専門性などによって増額される。乳児、幼児、小学生、11～15歳、16歳以上など、子どもの年齢によって変わり、年齢が上がるほど増額される。ロンドンの最低委託手当は乳児144£／週で、16～17歳は219£／週（2017-2018時点）。

4.里親になるまで(アセスメントと里親認定)

里親希望者のアセスメントから認定までは6～8カ月の期間を要する。不適格な申請者の基準もあり、以下の項目が確認される。[適切な基準に沿って子どもを養育できない][保護上の問題][犯罪歴][偏見や差別的な態度][健康やメンタルヘルスの問題、薬物使用][連携ができない・したくない]。里親認定は毎年行われる。

●アセスメント 第1ステージ

里親についての問い合わせがあると、まずソーシャルワーカーが家庭訪問を行い、申請書の提出、登録についての説明がなされる。全家族の犯罪歴、健康状態がデータベースで照会され、短期間で不適切な人を除外していく。

●アセスメント 第2ステージ

より詳細なアセスメントを行う。養育上影響のある、宗教、人種、文化などのバックグラウンド、就労状況、生活水準、レジャー活動、興味、養育経験、人格やライフストーリーなどすべての家族について確認される。この段階では、養育に適切なスキルや能力、潜在的な能力があるかどうかにも調査される。

日本とここが違う👉 認定前研修はアセスメントの一部！

第1ステージと第2ステージの間に、認定前研修「Skills to Foster」を受講し、措置不調を防ぐために、里親として必要な実践的なスキルを身に着けることが重視されている。グループによる相互交流を大事にしており、ソーシャルワーカー、ベテラン里親が関わる。里親として適切かどうかをアセスメントする機会にもなっており、里親候補者の懸念事項についても丁寧に応答していく。

5.里親はチームの一員

里親は社会的養護を担うチームの一員として位置づけられ、スーパービジョン担当ソーシャルワーカー、実親、子ども担当SW、子どものニーズに応じた教育(学校関係者)・医療関係者と連携して養育にあたる。特に、里親と、里親のスーパーバイザー、子ども担当SWの連携は重要である。エビデンスが確立されているわけではないが、良好な選考方法や研修、スーパービジョンがケアの質を高めると考えられている。

ケアの質を左右することとして以下の6つが挙げられる。このうち、3つがうまくいっていなければ、措置不調となることが多い。

- 委託がどのように行われたか(無計画な委託、または、短期間での委託がなされている)
- 子どもの特徴(発達特性、疾病・障害などの有無)
- 里親の資質
- 子どもと里親との相性
- 実親との交流(委託後に起こることが事前予測できているか、交流が悪影響を及ぼしているかなど)
- 学校への適応状況(学校でのトラブルや不適応状況の有無)

里親認定前の研修

The Skills to Foster

全ての里親が必要とする実践的な日々のスキルを重視。こうしたスキルはイングランドにおける研修、サポート、開発基準やその他の職業開発資格に関連づけられている。

プログラム概要は、以下の通りである。

- 自治体やIFAのスタッフが業務の一環として実施。
- 通常2～3日間。
- 夕方、週末、あるいは平日の時間帯に実施。
- 通常の勤務時間以外で勤務するスタッフは個別に手配。
- グループベースのインフォーマルなプログラム。
- SWが進行し、また参加者からの質問に答えるため経験豊富な里親が参加することが多い。
- アセスメントステージ1と2の間で実施する。

セッション1 里親は何をするの？

セッション2 アイデンティティと人生の機会

セッション3 他者との協働

里親は孤立するのではなくチームの一員として養育にあたることが強調され、チーム内コミュニケーションの重要性が伝えられる。

セッション4 子どもを理解することと
いつくしむこと

子どもの問題行動が過去の虐待やネグレクトの中で学習されたものである可能性を理解し、愛着理論や、社会学習理論をもとに、子どもへの関わり方を学ぶ。

セッション5 より安全な養育

里子がなぜ脆弱だと考えられているのか。保護、権限、関係構築、リスクマネジメント、家族のより安全な養育プランをつくるために必要なスキル。

セッション6 移行/措置変更

小さな移行(旅行など)を経験させ、最終的に大きな移行(転校、委託変更、自立)を乗り越えていけるように、移行時にどうサポートするのか。

セッション7 My Family Fosters

里親家庭の実子向けのハンドブック、ソーシャルメディアについて。家庭での実践、実親との交流についての課題や活動。

参加者の声

- イギリスの取組みについて詳しく聞くことができ大変有意義でした。日本ですでに取り入れている部分も多くあると思いましたが、認定時のアセスメントについては厳密にしている印象を受けました。フォスタリングチェンジプログラムについては、広まることを期待したいです。(児童相談所職員)
- フォスタリングチェンジプログラムと合わせて認定前研修についても日本で実施されていくことを期待しています。アセスメントの重要性を感じていたため、詳しい内容についても知りたいと思いました。(児童養護施設職員)
- チームによる養育の大切さが分かりました。(里親支援機関職員)
- アセスメント方法が大変興味深く、もっと知りたいと思いました。(児童相談所職員)

満足度					理解度				
高い				低い	高い				低い
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
37.8%	47.6%	13.5%	1.1%	0.0%	19.4%	53.9%	24.4%	2.2%	0.0%

里親登録後の支援

Fosteringchange Program(フォスタリングチェンジ・プログラム)

多くの里親たちから、子どもの問題行動についての支援を求められ、ロンドンモーズレイ病院のフォスタリングチームで開発された、里親のためのペアレンティングプログラム。

愛着理論、社会的学習理論に基づき、モデリングを通じて養育者がスキルを身に付け、グループで学び合う、実践のためのプログラムである。肯定的な注目とあたたかさを持って子どもと関わることからスタートし、そのうえで肯定的な方略や子どもとの良好な関係を築いていくセッションの流れが大きな特徴である。長所を認め育み強化していくことを重視している。ウェールズでは、2015年~2020年の5年間に、825か所で実施され、約1500名が受講している。プログラムの効果測定が現在行われており、2019年に結果が出る予定。

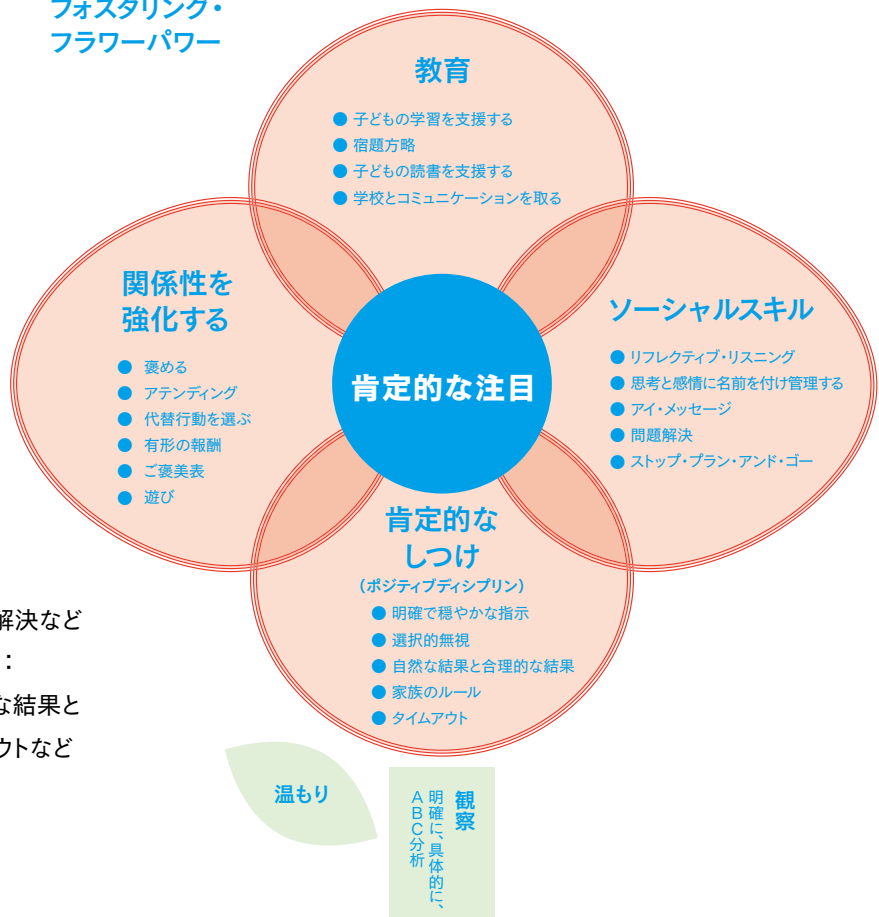
プログラム概要は、以下の通りである。

- 週1回3時間、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。
- 対象者は、実際に里子を委託されている里親12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気の中で実施される。

プログラム内容は、以下の フラワーパワーに示される 4要素から構成される。

- 養育に最も必要な要素として「温かさ」を基本とする
- 関係の構築:ほめる、アテンディング(肯定的注目)、代替行動の選択、有形のご褒美、ご褒美表
- 教育:学習の支援、宿題戦略、子どもの読書を助ける、学校との連携
- ソーシャルスキル:
リフレクティブリスニング、考えと感情のラベリング、アイ(私は)メッセージ、問題解決など
- 肯定的しつけ(ポジティブ・ディシプリン):
明確で冷静な指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウトなど

フォスタリング・ フラワーパワー



英国のコアアセット(里親支援機関)が実施している「journey to foster(里親養育への旅)」というトレーニングツールを日本向けにアレンジして、認定前研修として、現在福岡市と大阪府の2カ所で実施しています。

研修ではありますが、アセスメントの一部としての役割を果たしていますし、実施することがゴールではありません。このツールを使って何をやるのか、何を目的としてこのツールを使うのかを話したいと思います。

これまでの認定前研修には、疑問を持っています。研修の内容も講師も素晴らしいが、発信する量と理解する量のバランスはどうか、研修が受講者にどのような変化をもたらすのか、変化があったとしてもそれを分かる術はあるのか、数時間で養育に必要なスキルは身につくのかなどです。研修が終わってスペシャルな里親になるわけではなく、むしろ大切なのは、研修後も共に学び合い続けることです。そのためには信頼関係を築いていかなければなりません。わたしたちがこれを通し大切にしていることは、グループワークの中で自分自身に向き合う機会や、自分の子ども、養育あるいは子どもの人権福祉に対する考え方向き合う機会を提供することです。そして、私たちも里親候補者から学ばなければなりません。養育の本質に触れない、当たり障りのない会話、何か不安を感じる関係は、私たちが目指している信頼関係ではありません。深いかかわりが里親さんと私たちに求められる関係であり、journey to fosterは、非常に有効なツールであると思います。

journey to fosterでは以下の6つのモジュールがあります。①里親の役割②協働③子どもと若者を理解する④回復力をつけ、良い結果を導く⑤安全な養育⑥新たな出発 - 前進するです。

一つの成功例を挙げます。大阪に、私たちがとても信頼しているある里親さんがいます。journey to fosterを終えて養育に入りま



した。ある時、英国からキーアセットグループのトップの方が視察に来て事務所で研修のことやいろいろなことを質問しました。「研修、journey to fosterを受けてみてどうだった?実際に役に立っている?」などです。彼女はこう答えました。「全然役に立ってません」その時、私は「よっしゃ」って思いました。なぜかといいますと、彼女の研修後の変化はソーシャルワーカーが見て、理解しており、実際の日々の業務の中でどう役に立っているのかは一緒に確認できているからです。journey to fosterは完璧なものではありません。いつもjourney to fosterが頭に残っているわけでもありません。毎日毎日養育に追われることを考えながら「なんの役にも立ってないです」と、日々の率直な感情を恐れることなく目の前で言ってくれた時に「あ、この人はちゃんと信頼してくれている。」自分のネガティブな感情もためらうことなく言ってくれた時に私はjourney to fosterをやった本当によかったなと思いました。

もちろん、委託後のトレーニングやサポートも準備していますが、journey to fosterはそういうものであって欲しいとこれからも思っています。

参加者の声

- キーアセットさんが研修で大切にしていることがよく理解できた。研修が支援者と里親候補者の信頼関係構築の場になることがよくわかった。(児童相談所職員)
- とても丁寧な認定前研修実施されていることがうかがわれました。もう少し内容をお聞きしたかったです。(児童相談所職員)
- journey to fosterの中身を知りたくなりました。(児童養護施設職員)

満足度					理解度				
高い				低い	高い				低い
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
35.1%	40.5%	21.6%	1.6%	1.1%	31.4%	42.2%	20.5%	3.8%	0.5%

松崎 佳子（認定NPO法人SOS子どもの村JAPAN 理事）

福岡市では2005年から里親推進啓発事業（新しい絆プロジェクト）がスタートし、里親委託率を6.9%から約40%に伸ばしてきました。この活動は、福岡市と子どもに関わるさまざまな市民団体が協働で進めてきたものです。その中で見えてきたのは、子どもにとって家庭が重要であること、里親支援と普及は両輪の輪であること、地域の子どもは、地域で育てること、専門家のケアが必要であること、そして、社会的養護を行政の課題から市民の課題にすることなどです。これらの活動を通して2010年子どもの村福岡（現SOS子どもの村JAPAN）が開村しました。

SOS子どもの村JAPANは、国際NGOであるSOS子どもの村の「すべての子どもに愛ある家庭を」を理念に、家族と暮らすことができない子どもを“家庭”で育てること、“家族”が離れて暮らす事がないようにすることを目的に取り組んでいます。

子どもの村は、里親制度を活用し、以下の養育・支援モデルで子どもたちを育てています。

- ①育親（里親）、ファミリーアシスタント、ソーシャルワーカー、様々な専門家がチームペアレンティングで子どもを育てていくこと
- ②児童相談所との連携により実親との連携・支援を行うこと
- ③家庭養育のための人材養成研修（里親専門研修や市民向け公開研修）を行うこと
- ④地域で育てること
- ⑤ネットワークで支えること

また、地域での家族への支援として、子ども家庭支援センターにおいて、平日夜間、土日祝日の相談事業を行い、平日相談が難しい共働きやひとり親のご家庭の相談など年間約1900件の相談を受けています。また、西区との協働で「みんなで里親プロジェクト」を展開し、ショートステイ里親の啓発推進を行っています。

特に2015年度より、里親支援として、英国の里親継続研修であ



るフォスタリングチェンジ・プログラムの普及に取り組んでおり、2016年3月ファシリテーター養成研修を実施、2016年度日本初のプログラムを福岡市児童相談所と協働で実施しました。フォスタリングチェンジ・プログラムは、里親が子どもとよい関係を作り問題行動に対応するための様々な方法を紹介、子どもの視点を重視し、子どもの問題行動をどう理解するかを意識しており、里親に「個別の答えを与えるプログラム」ではなく、里親が「自分で問題を見つけるための方法や考える枠組を与えるプログラム」であり、里親自身の自尊感情や自信を回復するという支援者支援の観点が含まれていることも特徴です。日本の里親研修は、登録までの研修はありますが、子どもを委託後の研修は単発的なものが多く不十分です。このプログラムは、委託後研修として有効性が高いものと考えています。2017年度は福岡、熊本の他、静岡、上田、山梨、宮城など11か所で実施されるなど全国的に展開されてきています。

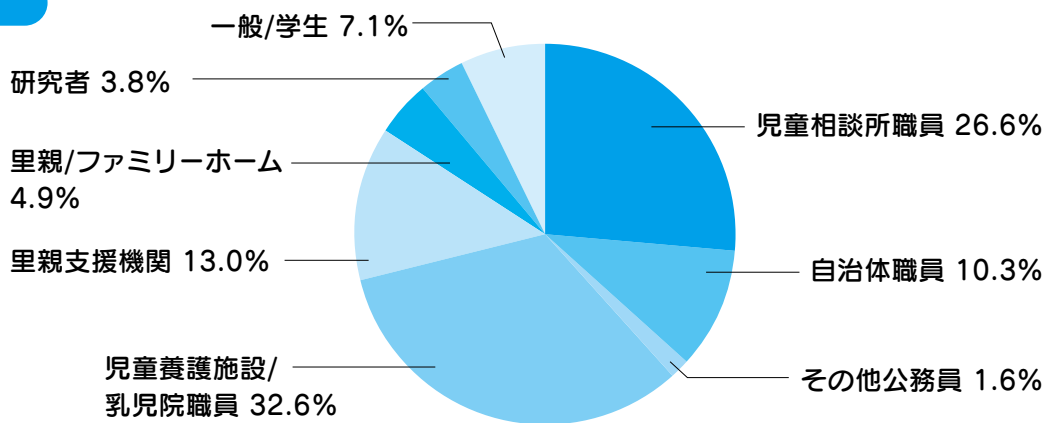
参加者の声

- SOS子どもの村の在り方や、フォスタリングチェンジプログラムの実施状況の効果について聞くことができて良かったです。（児童相談所職員）
- 里親は公的養育というが私的な部分が多い。SOS子どもの村は里親の支援がしっかりされている。里親支援は後回しになりやすい中いいシステムだと思いました。（児童相談所職員）

満足度					理解度				
高い				低い	高い				低い
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
32.8%	51.7%	15.0%	0.6%	0.0%	30.7%	55.1%	13.6%	0.6%	0.0%

アンケート結果

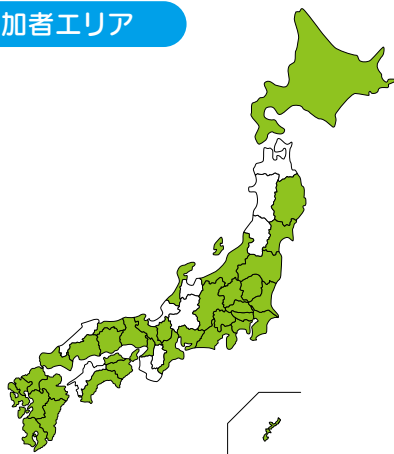
1 参加者属性



【参加人数】

東京会場 158名
九州会場 102名

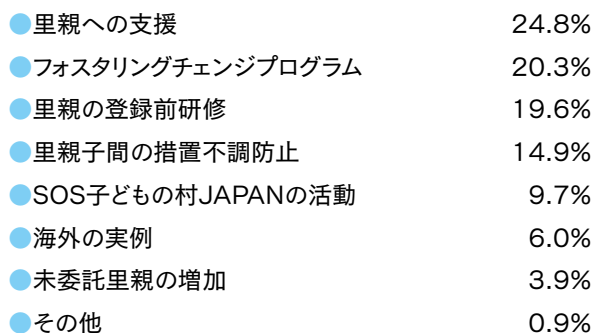
2 参加者エリア



東京フォーラム



3 参加のきっかけ(関心のポイント)



九州フォーラム



参考データ

里親等委託率過去10年間の
増加幅の大きい自治体
増加幅(平成18年⇒28年)

平成29年 社会的養護の現状について(厚生労働省)

1 さいたま市 27.6% (6.3 ⇒ 33.9)	6 滋賀県 16.1% (23.2 ⇒ 39.9)
2 静岡市 27.1% (18.5 ⇒ 45.5)	7 佐賀県 15.8% (3.9 ⇒ 19.7)
3 福岡市 27.1% (12.6 ⇒ 39.7)	8 岡山県 15.3% (5.4 ⇒ 20.6)
4 大分県 19.7% (10.9 ⇒ 30.6)	9 札幌市 15.2% (9.9 ⇒ 25.1)
5 富山県 17.2% (5.6 ⇒ 22.8)	10 和歌山県 15.2% (3.2 ⇒ 18.4)

4 今後希望するフォーラムの内容について

- 里親への支援の実践
- フォスタリングチェンジ実践報告
- 里親のアセスメント
- 里親不調の予防
- 養育里親の普及
- 実親との交流
- 未委託里親への支援
- イギリスの里親支援についての詳細
- チームによる里親支援
- SOS子どもの村の実践
- 養子縁組について
- フォスタリングチェンジの推進成果

5 まとめ

今回のフォーラムは東京、九州の両会場とも、参加者の関心の高さが熱気として伝わり、特に東京会場は、開催の1ヶ月前には満席となったため、多くの方にキャンセル待ちをして頂く状況となりました。

当日は、日本全国の多くの自治体から参加者があり、各自治体とも里親委託率の向上が課題となる中、里親支援、養育の質的向上をはかる「フォスタリングチェンジプログラム」、登録前研修、措置不調の防止などに関心が寄せられていることがわかりました。

既に里親支援の実践に携わっている、行政関係者や民間の里

親支援機関からは、「もう少し詳しく」、「より具体的に」とのご意見が多く寄せられました。

今後のフォーラムの内容を検討するにあたり、アンケートを実施したところ、やはり里親への支援についてのご要望が多いことがわかりました。

こうしたアンケートの結果を踏まえ、次回のフォーラムは、里親のアセスメントや、里親ソーシャルワーク、というテーマで、2019年3月2日(東京会場)、3月10日(九州会場)で企画しております。次回も、皆さまにお目にかかれることを楽しみにしております。



アンケートまとめ協力 NPO法人ドットジェーピー
学生インターン：高崎祐歌 山部こころ 佐伯姫夏

Supported by

日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION



SOS 子どもの村
JAPAN

NO CHILD SHOULD
GROW UP ALONE

特定非営利活動法人 SOS子どもの村JAPAN

〒810-0054 福岡市中央区今川2-14-3 サンビル3F

【TEL】 092-737-8655 【FAX】 092-737-8665 【E-mail】 info@sosjapan.org

<http://www.sosjapan.org>